

## 2、3月の米国景気・雇用・物価動向

### ポイント① 緩やかな景気の減速

米国の3月の米ISM(サプライマネジメント協会)景況感指数によれば、図1に示されるように、企業の景況感が昨年のピークに比べてやや低下しています。

ニューヨーク・アトランタ連銀による実質GDP(国内総生産)ナウキャスト(様々な指標に基づく足元のGDPの推計)によれば、1-3月期には前期比年率(前期比を1年当たりの伸びに換算したもの)は1.5~2%程度となっており、実質GDPは昨年10-12月期の2.2%から若干減速した模様です。

### ポイント② インフレ安定、雇用は堅調

一方、インフレ率は安定しています。2月の消費者物価指数は前年同月比+1.5%、エネルギー・食品を除いたコア・ベースでは+2.1%と、それぞれ1月分より0.1%ポイント低下しました。

4月5日発表の3月の雇用統計によれば、非農業部門雇用者数は、前月比19.6万人増、過去3か月平均でも18万人増と概ね堅調で、失業率は3.8%と低水準です。一方、時間当たり賃金は、前年同月比+3.2%と2月の+3.4%を下回りました。昨年は賃金上昇率が加速していましたが、足もとでは安定化してきたようです。

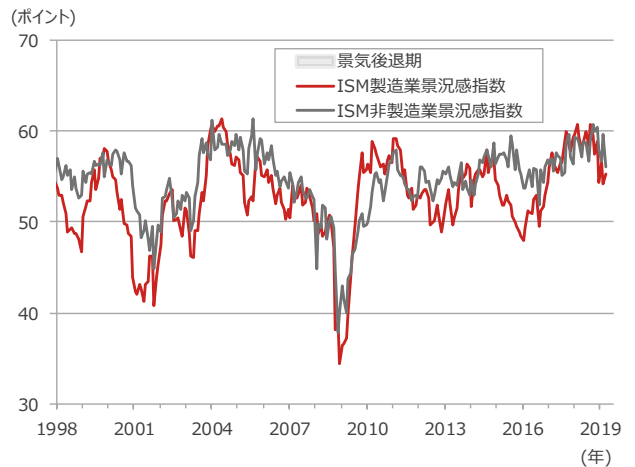
### ポイント③ 注目される4-6月期の動向

1-3月期の景気減速は、政府機関の閉鎖や米中貿易摩擦に対する懸念から、家計、企業の支出が手控えられたことが影響した可能性があります。

FRB(米連邦準備制度理事会)の金融政策がハト派に傾いたことや、米中貿易交渉合意への期待などから、企業・家計景況感が改善して、今後は景気が持ち直すことも考えられます。4-6月期にこうした景気の持ち直しが確認できるかが、注目されます。

図1：米ISM景況感指数

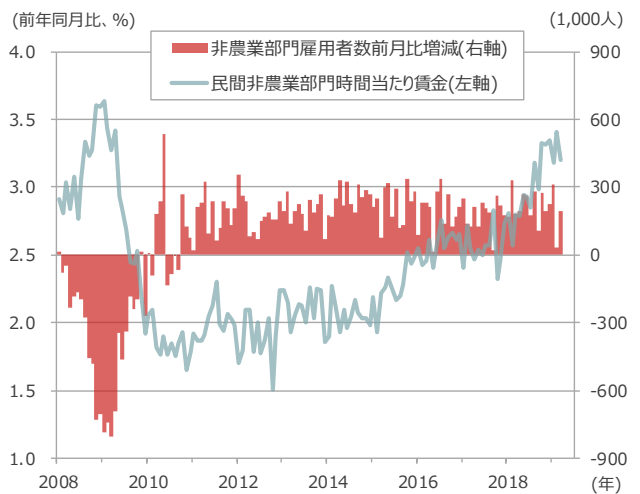
期間：1998年1月～2019年3月、月次



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

図2：米賃金と非農業部門雇用者数

期間：2008年1月～2019年3月、月次



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

4月10日 米消費者物価指数(3月)  
4月16日 米鉱工業生産指数(3月)  
4月18日 米小売売上高(3月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。